

令和7年2月18日

会報「桐の花」第103号

— 目 次 —

桐の花第103号発行にあたって	1
事務局だより・事業所だより	3
令和7年度行事計画（案）	8
＜特集＞	
グランドソフトボールに関わって	11
そよ風の活動を通じて感じていること	17
盛岡地方気象台での講演	22
福祉協会協力金	25
編集後記	25

編集発行 社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会事務局

責任者 及川清隆

住所 〒020-0015

盛岡市本町通3丁目6-20 岩手県視覚障害者福祉会館内

電話・FAX 019-652-7787

電話（2階） 019-629-3434

郵便振替口座 02250-4-53987

社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会

※ この会報は（公財）岩手県福祉基金の助成を受けて発行しております。

私達が目指すもの

○ 視覚障がい者の自立支援

私達は、視覚障がい者の安全・安心な暮らしを支援すると共に、按摩・マッサージ・指圧、鍼、灸の職業の自立支援を目指します。

○ 視覚障がい者本位の生活支援

私達は、視覚障がいがある人の個々の特性を尊重し、求められる日常生活向上の支援を目指します。

○ 開かれた経営

私達は、企業的発想を持ち、施設利用者や地域の意見を尊重すると共に情報を開示し、公共的・公益的立場に立った、開かれた経営を目指します。

○ 障がい者福祉の一体化活動

私達は、視覚障がい者福祉活動を基本としながら、障がいの種別や程度を越えて、障がい者の仲間と共に障がい者福祉の活動を目指します。

○ 地域と共生の福祉活動

私達は、地域と連携しながら共生し、障がい当事者や地域のニーズの実現を図ると共に、掲げた活動理念の実現を目指します。

会報桐の花第103号発行にあたって

理事長・会長 及川 清隆

～お互いの感謝と語り合うことの大切さ～

読者の皆様、新年おめでとうございます。遅ればせながら、本年も宜しく願い申し上げます。昨年中は当会や法人に対して、ご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆様方は、令和7年のお正月はどのように過ごされましたでしょうか。私は昨年、兄が他界したので、のんびりと過ごしました。

さて、本年は昭和100年に当たります。また、あまり聞きなれないかもしれませんが、紀元2684年になります。更に、当会発足から75年、岩手県視覚障害者福祉大会も記念の20回を迎えます。そうそう、忘れてはならないのが、太平洋戦争後80年にもなります。戦後の傷跡は、世代を超えてまだまだ引きずっているような気がします。

こうした節目をとらえて、法人及び事業運営の中長期的将来構想を立てなければと考えております。また、役職員体制の強化や、県内支部をどう支えていったら良いかなど、組織体制の

課題が山積しております。本年は、そうした課題を一つでも、二つでも解決できればと考えております。

話は変わりますが、1月の26日に、支部長委員会と役職員研修会をアイーナで開催しました。役職員研修会は、高橋弘理事に講師をお願いして、「障害者日常生活用具給付事業」について、話していただきました。近年、視覚障害者日常生活用具が時代の変遷と共に、大きく変わっているため、制度理解と、県内各市の給付品目の学習をする目的から、開催したものです。この役職員研修会は、例年開催していましたが、支部長研修は本年初めて試みたものです。今後は、日視連の目指している活動理解等の研修を深めるため、支部長を含めた役職員研修会の開催は大切と思っています。

支部長委員会では、来年度の行事や事業についての意見交換と行政や民間団体への意見要望について、話し合いをしました。各支部長から活発に意見や質問が出され、時間内には収まらなくなりましたが、佐賀副委員長の進行がまとまっていて、有意義な会議でした。

午後には、例年開催している、役職員新年交賀会を開催しま

した。本年から、各支部長にも参加していただき、総勢25名の参加者で、とても賑やかな交賀会となりました。これからも、毎年継続することで、皆さんから賛同をいただきました。

1月26日の様子を見聞きして、「組織とは人のつながりであり、お互いを知り、良く語り合うことで、形作られて行くことなんだ。」とあらためて痛感させられた1日でした。

私は、高齢者ですが、今年こそ、スマホを視覚を補うため、何とか使いこなせるようにしたいと考えております。

まとまりのない年頭の挨拶となりましたが、読者の皆様方の本年のご健勝とご多幸を祈念して結びといたします。

事務局だより・事業所だより

1 事務局だより

新年おめでとうございます。平素より当協会への温かいご支援とご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、視福会館屋上の防水改修工事を行いました。少し遅

くなりましたが、報告いたします。以前より指摘を受けておりました会館屋上の塩ビシート of 葺き替えについて、令和6年 10月17日付で契約を締結、令和6年11月15日をもって、防水改修工事及び排水路ヒーター設置工事が完了となりました。視福会館については老朽化に伴い、この他にも補修が必要な個所が何か所かありますが、計画的に進めていければと思っています。

そして今年も、大きな災害や事故もなく、心穏やかに新しい年を迎えることができました。皆様方におかれましても、ゆっくりとしたお正月を過ごされたことと思います。

さて、毎年のことながら吉例に従い干支のこと。今年の干支は乙巳(きのとみ)、60年周期の中の42番目に位置付けられています。「乙」は、しなやかに伸びる草木を表し(柔軟性と適応力)、「巳」は、再生と変化を表しており、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いをもつ年とされています。様々な困難があっても、紆余曲折しながらも少しずつ前進していく、そんな1年になればいいなと思っています。

☆2月～3月の主な行事予定

2月 2日(日) 岩手県視覚障害者団体連絡協議会意見交

換会(予定)

3月 8日(土) 第5回理事会(予定)

3月23日(日) 第3回支部長委員会、青年部長、女性部長
会議(予定)

3月25日(火) 苦情解決第三者委員会(予定)

2 事業所だより

<就労継続支援B型 岩手マッサージセンター>

年も改まり、利用者・職員とも心を新たに業務に励んでいます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

ここ何か月かのマッサージセンターは、物価高騰や他社との競合激化の中、サービスの向上にみんな頑張っているところではありますが、昨年と比較してお客様が減少してきているのが現状です。免許証所有者の施術を強みに、今後は幅広いPR活動を図っていきたいと考えています。

<岩手ガイドヘルパーセンターあゆみ>

視覚障害者が安心安全に外出できるようにするため、同行援

護が制度化され10年以上経ちましたが、まだまだ広く社会に知られているとは言えず、ガイドヘルパー不足も続いている現状です。

そこで、視覚障害者の外出保障の諸制度の啓発や、ガイドヘルパーの必要性の周知、ガイドヘルパーの地位向上及び人材確保等を目的として、令和5年に社会福祉法人日本視覚障害者団体連合と同行援護事業所連絡会が記念日の申請を行い、日本記念日協会より12月3日を「視覚障害者ガイドヘルパーの日」として認定を受けました。

今年度は12月3日に令和6年度第2回記念式典同行援護功労者表彰がありました。表彰者については移動支援に15年以上従事された方が対象となり、当事業所から「佐々木とも子」さんが表彰されました。

以下、佐々木とも子さんのコメントです

～「功労賞に導いて下さった事業所、また利用者さんの助けのお陰で日々のガイドを未熟ながら行う事が出来ている事に感謝しかありません。関わる人全ての方たちが頂いたものであると思っています。これからも、教えと導きを宜しくお願い致します

す！」～

なお、東京会場で行われた受賞式典には、盛岡の視福会館からZOOMで参加され、後日記念の盾と賞状を受け取られています。

後続くガイドヘルパーさんたちにとっても励みになる式典となりました。事業所としても、より良いサービスの向上と時代にあったサービスを継続出来るよう努めていきたいと思えます。

<日中一時支援事業所 「ジャンプの家」>

日中一時支援事業は盛岡市と滝沢市との委託契約により地域生活支援事業としてサービス提供しています。

毎月月末に利用者交流会を開催しています。昨年12月25日にはささやかなクリスマス会を開催しました。普段より少し多めの9名参加でした。

指導員が持ってきてくれたハンドベルを一人一個ずつ手に持って実際に演奏してみました。はじめにドレミファソラシドの音階を練習して、そのあと「ちょうちょう」や「かえるのうた」などをゆっくり演奏しました。ハンドベルを一回振ってチリンと鳴らしたり、

慣れてきたらチリチリチリと連続して鳴らしたりしてきれいな音色を楽しみました。

今年もみなさんが楽しめる利用者交流会にしていきたいと思っています。

令和7年度行事計画(案)

令和7年(2025年)

5月21日(水) 決算監査

5月23日(金) 評議委員選任・解任委員会

5月25日(日)～26日(月) 第78回全国視覚障害者福祉
大会(千葉大会)

5月30日(金) 第1回理事会(視福会館)

5月31日(土)～6月1日(日) 第26回北海道・東北地区グ
ランドソフトボール予選大会(青森)

6月 同行援護従業者養成研修一般課程(会場未定)

- 6月15日(日) 定時評議員会(視福会館)
- 6月17日(火) 虐待防止及び身体拘束適正化に係る法人
研修と啓発活動(視福会館)
- 7月13日(日)～14日(月)東鍼連大会(会場未定)
- 7月 同行援護従業者養成研修応用課程(会場未定)
- 7月20日(日) 第1回支部長委員会(視福会館)
- 7月26日(土) 東北視覚障害者団体連合役員会
- 8月 3日(日) 第20回岩手県視覚障害者福祉大会記念
大会
- 9月 3日(水)～4日(木) 第71回全国視覚障害女性研修
大会(新潟)
- 9月14日(日) 職業研修会(盛岡視覚支援学校)
- 9月14日(日)～15日(月) 第71回全国視覚障害青年研
修大会(愛知)
- 10月11日(土) 第2回理事会(視福会館)
- 10月26日(日) 臨時評議員会(視福会館)
- 11月 9日(日)～10日(月) 第62回東北視覚障害者福
祉大会(福島大会)

11月15日(土) 中間監査・第3回理事会(視福会館)

12月 7日(日) 支部長研修会(会場未定)

12月10日(水) 虐待防止及び身体拘束適正化委員会

12月14日(日) キャリアアップセミナー「スポーツ活動」

令和8年(2026年)

1月25日(日) 役員研修会・新年交賀会

2月 1日(日) 岩手県視覚障害者団体連絡協議会意見交換会

3月 1日(日) 東北視覚障害者団体連合役員会(福島)

3月 7日(土) 第4回理事会(視福会館)

3月22日(日) 第2回支部長委員会・青年部長・女性部長会議(視福会館)

3月25日(水) 苦情解決第三者委員会(視福会館)

＜特集＞

グランドソフトボールに関わって

昨年の全国大会で準優勝の銀メダルを獲得したグランドソフトボール岩手チームを長年支えていただいている方々から原稿を寄せていただきました。

グランドソフトボール岩手チームに関わって

グランドソフトボール岩手

チーム コーチャー

柿崎 明広

グランドソフトボール(以下、グラソフ)岩手チームに関わるようになって15年弱程になるが、その間5回も全国障害者スポーツ大会(以下、障スポ)に連れて行ってもらい、銅メダルと銀メダルの2つのメダル獲得に立ち会うことができた。私の参加した障スポでは不思議なことに岩手チームを破ったチームすべてが決勝進出し、その多くが金メダルを獲得する因縁となっている。

~~~~~

参考:私がかかわった障スポと岩手チームの戦績

2013東京大会 初戦敗退 対戦相手の東京が銀

2016岩手大会 初戦敗退・3位決戦勝利(銅メダル) 初戦対  
戦相手の広島は金

2017愛媛大会 初戦敗退 対戦相手の愛媛が金(台風により  
2チーム優勝)

2018福井大会 初戦敗退 対戦相手鹿児島が金

2024佐賀大会 決勝敗退(銀メダル) 対戦相手の福岡が金

~~~~~

さて、私とグラソフとの出会いは視覚支援学校勤務時に学生の部活動指導をしたことに遡る。主に幼児や小学生と学校生活をしていて私も部活動指導に参加できたおかげでグラソフとの縁が生まれたのである。当時は学生グラソフ部も全国大会出場していた時期で岩手チームは最適な練習相手だった。「さすが」という印象が強く残っている。同期採用&研修仲間の金野先生がチームにいたこともあって手伝い程度の軽いノリでチームにかかわったことは否めないが、縁とは不思議なもので異動によ

って視覚支援学校を離れることになってから岩手チームとよりかかわるようになるのである。

そんな私は障スポ岩手大会を迎えてチーム作りの一翼を担うに至った。そこで監督をサポートしチーム選手個々の力を把握することや士気を上げるための方策になればと簡単にスコアの記録を残したデータ活用の真似事を始めた。そして年末の納会には一年間の対外試合成績をまとめて投手や打撃の好成績選手を発表することを行った。印象ではなく実際の記録を基に説明すると選手も意識し始め、さらに印象に残る活躍と役割としての活躍、全盲や弱視選手の異なる活躍を知ってチームの分析につながり、コーチャーに加えて試合の客観的情報を提供するコーチ的なかわりと役割を認めてもらった一因になったのではないかと思っている。晴眼(要眼鏡)の私は必要に応じて遠征先でチーム選手の眼のかわりをした誘導も重要な役割の一つとなっている。

年を重ねて体のケアが必要な年代となっても楽しく動き回る様子から多くの刺激をもらっている。グラソフが好きな選手が集

まってまとまって活動する姿はとても輝いて見え、チームにかかわり続ける理由の一つになっている。

最後に家族からはグラソフ岩手チームへのかかわりを「遊びに行っている」とよく言われている。同い年や同年代を含めたチーム仲間とのかかわりから触発され、本当に「遊び」や「趣味」と化している感じが心地よくなっている今日この頃である。

グラウンドソフトボールに関わって

関本 和弘

グラウンドソフトボール公認審判員になり、早いもので十数年がたちました。

グラウンドソフトボールの審判員として、希望郷いわて大会をはじめとする全国大会に参加することができ、多くの方々と交流しました。

また、昨年は全国障害者スポーツ大会佐賀大会に岩手県チームのコーチとして参加しました。準優勝という輝かしい成績に、チームの一員として嬉しく思います。私にとっては、コーチと

して参加できたことで、普段とは違った視点からほかの審判員の行動を見ることができ、大変良い経験でした。

グランドソフトボール審判員として、金野先生、岩手県チームの選手、全国のグランドソフトボール連盟の役員及び審判員、全国の選手、関係者には、お世話になりました。

今後とも、体が続く限り、微力ながらですが、グランドソフトボールの試合に参加していきたいと思います。

どうぞ宜しくお願いします。

※ 八幡平市ソフトボール協会審判員・グランドソフトボール公認審判員の関本和弘さんには、平成19年の東北地区大会岩手大会から審判員としてグランドソフトボール競技に関わっていただいています。

グランドソフトボールに関わって

滝沢市ソフトボール協会 審判員 佐藤和栄

令和6年の佐賀県白石町で開催された第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024グランドソフトボール競技」において決勝戦に進出。「2016希望郷いわて大会」の3位を上回る

素晴らしい大躍進をとげる事ができました。この成果については岩手日報にも写真入りで大きく報道されました。これも選手・指導者・関係者皆様方の努力と協力の賜と思います。誠にありがとうございます。

私のグランドソフトボール競技との関わりは「2016希望郷いわて大会」の2～3年前より始まりました。競技の開催地が盛岡市であり、近隣の審判員が必要との要請があり、盛岡市・滝沢市・八幡平市、雫石町、紫波町地区のソフトボール審判員集めに疾走し、自分自身も含め大半はほぼ素人の集まりで本大会までに間に合うかどうか疑問を持ちながらのスタートでした。金野先生の素晴らしい指導のお陰で研修、訓練を重ねるうちに自信がついたので、「希望郷いわて大会」は、応援審判員も来て頂きましたが、球審は全試合、地元の審判員で無事に終わる事ができました。

グランドソフトボールの素晴らしいところは全盲選手の投球・打撃もさることながら守備力、機敏な行動対処と共に敏感な反応、弱視選手との連係プレーは見事で感動する場面です。練習試合など選手と共に大会に参加してきましたが、プレーやルール

を知れば知るほど奥が深く、一朝一夕では到底できない競技だと強く感じています。

最近ではコーチャーとして愛媛大会、福井大会、佐賀大会に同行してきました。自分自身も滝沢市のハイシニアソフトボールクラブの選手の一員として競技に参加しつつ今後においてもできる限り関わっていきたいと思っています。

これからの目標としては、若い審判員をグランドソフトボールに一人でも多く勧誘し育成していきたいと考えております。

そよ風の活動を通じて感じていること

そよ風代表 熊谷 賢一

2019年4月からそよ風で同行援護事業を始めて今年の3月末で丸6年がたとうとしています。狭い範囲ではありますが日々感じていることを書いてみたいと思います。

できるだけ自由に出かけることは大切だなー

私は視覚障がい者のための卓球、サウンドテーブルテニス

(STT)を陸前高田・大船渡・北上・盛岡・仙台・秋田等に出かけて練習したり試合を楽しんだり、落胆したりしながらも続けています。ふだんの生活では出会えない方々と出会うことができ、それなりに軋轢もありますがいろいろな考えにふれられる事が生活の「張り」になってとても有意義に生活しています。

加えて、顔見知り程度の関係でも施設の職員の方々・一般の利用者とすれ違うときのあいさつなども増えてきて、そこはかたなく「出かけるのは楽しいな」など思うことができてもまた明日に向かって生きる力となっています。

人それぞれ楽しみや生活のリズムも違うとは思いますが、できるだけ機会をつくって外に出かけてみたらなーと思います。

できるだけ簡単に使える送迎を続けたいなー

私の住んでいる陸前高田は年々公共交通機関が脆弱になって、大船渡経由で盛岡に行くバスも1日2便になってしまい、別ルートで一関を経由して盛岡に行くとする、朝早くからBRTと在来線で気仙沼・一関を経由して盛岡に行くことになりましたが、片道4時間30分程度かかってしまいます。広い岩手県で沿岸

南端の街から中央の街に出ていくのだからあたりまえだと言われてしまえばその通りではあるのですが、不便極まりない事も事実です。

どこから見ても良い方法ではないかもしれませんが、私が代表をしているそよ風では、ガソリン代相当分のお金を、そよ風に同行援護利用者として登録している利用者の方からいただいて送迎サービスを同行援護事業とは別にさせていただいています。快く運転を引き受けていただいている方々のために、しっかりと時給や保証をしていけるような方法を探してはいますが、市町村からの補助・福祉有償運送など一長一短で良い方法を見つけられずにいます。

より良い方法を見つけて、送迎を続けて行きたいと思っています。

情報を受発信する方法をどん欲に身に着けたい

つねに思うのが情報を受け取ったり発信したりするための方法を確立する事がとても大切ではないかということです。平常な場合でしたら、やはりパソコンやスマートフォンを初めとするデジ

タル機器をある程度自力で使えると言うことは、とても重要で有用な事ではないかと思うのです。

最近ではAI「人工知能」(アーティフィシャル・インテリジェンス)を取り入れる事で紙に書かれた文書や紙幣の読み取りを、AI登場以前とは比べられないほど正確に伝えてくれるアプリケーションソフトや活字読み取り機器が出てきました。

そのような機器などが登場してきているということを知るためにも、電子メール・インターネット・SNS等に挑戦してそれなりにでも使えるようにしておくことが大切で、加えて賛否は在ると思いますがマイナンバーカードを中心に個人情報の集積が始まり、自分の情報を自分で閲覧・監理できるかもしれない時代になってきました。

このような時代が来たという事は視覚に障がいを負った者にとって喜ぶべき事と捉えています。ただこれは平時の時で、何か災害がおきると電気や電波が使えなくなってしまう。2011年の大震災のようなときです。あのような大災害の時は掲示板に書かれていることなどを読んでいただくしかありませんでした。

前段の話とは逆転するような話になってしまいますが、つねに携帯用点字機とメモ用紙になるような紙を持っていれば良かったなと後悔してみたりしています。つまり、偏らずにいろいろな方法を身に着けておけばどの様になっても困ることが少なくなるのではと考えています。

まったく得意な分野ではありませんが、そよ風でもIT機器や点字などの講習をして、より良い生活をしていただけるよう、意思疎通支援事業や日中一時支援事業などを展開していこうと思います。

理想的な支え手と出会うのは難しい

何かの事業をするためにはやはり人との出会いが大切で、特にもそよ風のような特異な形で活動をしている組織は、ボランティア精神を基礎として誰かのために活動したいと思っている方と出会えないと難しいのです。

街で障がい者の方を見かけたので手助けをしたいと言う方は多くなってきましたが、そよ風では同行援護だけでなく低料金の送迎サービスも行っているため、全ての行為をお金に換算して

支払う事ができないので、ボランティアと常勤社員の中間的収入で頑張れる環境にいらっしゃる方のみが関わって事業を運営しています。

ただこの状態では運営を継続して行くのが厳しいので、もっと視覚障がい者の困りごとを解決できる事業を展開して経営を安定させるとともに、そよ風に関わる目的を多様化して飽きずに関わっていただけるようにしたいと思っています。

そよ風を始めてから感じた事を思いつくまま書かせていただきました。雑文を最後までお読みいただいた方々に感謝いたします。

令和7年1月31日(金曜日)

盛岡地方気象台での講演

理事 成田優子

昨年の11月下旬に盛岡地方気象台の職員対象に講演させていただく機会がありました。気象台へは初めて訪れたのです

が、急斜面の坂を上りきった高台に建っていました。

会社のトップは社長、病院のトップは院長というように、気象台で一番偉い方は台長さんとおっしゃるそうです。

講演内容は「災害時の要配慮者への情報提供」で、視覚障害者への情報提供の仕方についてを中心に約90分話してきました。視覚障害当事者を招いての講演会は初めてということでした。前半はいつも私がガイドヘルパー養成研修で話しているのと同じ内容で、視覚障害者の見え方について、障害特性などを話しました。後半は視覚障害者の誘導方法や基本姿勢について、誘導時にはしてはいけないことなどを実際にデモンストレーションしながら話しました。

講演会の講師はモニターに資料を写し出しながら講演する方式が多いと思います。受講するのが健常者の場合は目でも確認しながら聞いてもらえます。そこで今回は事前にパワーポイントで資料を作成したり、当日のパソコン操作などを職員にも協力していただいで無事に講演を終えることができました。

大雨や台風による洪水被害などは毎年起きています。日頃からの備えと避難経路の確認、災害時の要援護者登録など私

たちができる対策はお済みでしょうか。

みなさんは行政やテレビやラジオなど様々なメディアから伝えられる防災気象情報や警戒レベル、緊急地震速報などをどのように受け取っていますか。今年の3月31日でNTTの「天気予報サービス177」が終了します。

今回、講演資料をまとめながら、ふと会員のみなさまの中でインターネットやスマホのアプリなどで天気予報を見ている方はどれくらいいらっしゃるのだらうと思いました。お天気アプリは24時間日本全国どの地域の天気も知ることができます。最近私が気になっているアプリはBe My Eyes(ビーマイアイズ)の新機能Be My AI(ビーマイエーアイ)です。視覚障害者が使いやすいアプリについていつかみなさんと情報交換ができればいいなと思っています。

福祉協会協力金ご芳名(敬称略。入金順)

令和6年12月～令和7年1月までの協力者です。

[協力金]

大橋 絹子 1,000円

心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

編集後記

読者の皆様、今年もよろしくお願ひいたします。令和7年初めの会報をお届けします。「年の初めは、年度の終り」ということで、もう少し過ごせば、待ち遠しい「春」が来ます。

今号では、昨年の大会で準優勝に輝いたグランドソフトボール岩手チームに長年関わっていただいている方々から原稿をお寄せいただきました。雪かきのときに着て重宝しているジャンパーの背中に「2016希望郷いわて」とありますが、あの大会での銅メダルを思い出しました。これからも岩手チームを支えてくださるよう、よろしくお願ひします。

陸前高田市で同行援護事業等を行っているNPO法人おでか

け支援グループそよ風代表の熊谷さんから、活動の様子等を寄稿していただきました。ありがとうございました。

次号は、新年度の発行になります。どうぞお元気でお過ごしください。

(編集委員:横澤 忠・及川 清隆・中田 一洋・成田 優子)

※ 音声デジ版の録音は盛内優子さんに担当していただいているものです。